

IV-38

女性運転者の運転挙動と意識に関する研究

北海道大学工学部 学生員 八木 麻未子
 同上 学生員 田中 秀典
 同上 正員 中辻 隆
 同上 正員 加来 照俊

1. はじめに

近年、女性の免許取得率が、男性の取得率の増加を上回り、急激に女性ドライバーが増えてきた。自動車教習所での教育は男女に差がないのに、女性の免許所有率の比べ、事故率は男性のより高い。昔から嫌われるドライバーは、「1姫、2トラ、3ダンプ」といい、女性ドライバーが圧倒的に嫌われている。事実、女性と男性で比較すると、運転者の増加率と事故率の関係では女性の方が事故率は高い。同じ運転教習を同じだけ受けて、ともすると女性の方が長時間教習を受けているのにも関わらず、実際の道路では女性ドライバーと言うだけで、「危なっかしい」という烙印を押されて必要以上に嫌われている現状である。実際に女性の運転に対する意識と路上での運転技術と男性の女性に対する意識に何か違いがあるのではないかと、挙動の面ではどうか。この道路上での男女の不仲説を、運転意識と共同の両面から明確にすることがこの研究の目的である。その手段として、運転意識アンケートと交差点での観測、観察を行った。

2. 調査、観察方法

2. 1 アンケート調査

調査は、手稲運転免許試験場において、更新者を対象にすべて日曜日に3回実施し2800枚の配布と1061枚の回収を得た。運転者の運転する態度や運転するときの意識などを見るためにアンケートを実施した。アンケート項目は、性別、年齢(年代)、免許取得時の年齢、運転目的、運転頻度等の基本属性に加え、本題の項目は、以下のとおりである。

- 1) 運転に対する姿勢：得手不得手、好き嫌い
- 2) 危険認知：頻度、対象
- 3) 苦手：技術、状況、運転者、車両種類
- 4) 異性の運転者に関して：運転技能、マナー

回収したアンケートの中で有効回答が1055枚、男女比は約65：35であった。

2. 2 交差点観察

アンケートによる運転意識調査で、男女ともに苦手とする状況が交差点における右折であることを考慮し、右折時の男女の運転の動きの違いを明らかにするために観察を行った。北海道大学の13条門交差点で、午前6：30から9：00までの朝のラッシュアワー時に、右折して構内に入ってくる右折車両を地上での観察者と地上、ビルの屋上よりビデオ録画するとともに、おおよその推定年齢、右折時の歩行者、対向車の確認状態とウインカー、発進タイミングを地上の目視によって観察した。対象とされた運転者は20代から70代におよび、サンプル数は男性32台、女性13台であった。サンプルは主に北大に通勤、通学に来る人が多かった。観察日は11月27日と12月2日の2日間である。同時に右折対向車の速度も計測した。

3. 結果、考察

3. 1 アンケート調査

性別アンケート数は65：35と性別免許保持率の65：35とほぼ同じであり今回のアンケートが十分なサンプル数を有していることがわかる。年代別では、女性は30代、男性は30、40代がもっとも多かった。図1は運転歴の割合である。アンケート回答者の年代は同じようにそれぞれ30、40代の集中して

A Study on Driving Attitudes and Behaviors of Female Drivers

by Mamiko YAGI, Hidenori TANAKA, Takashi NAKATSUJI and Terutoshi KAKU

いるにも関わらず、運転歴は男性の方が長い。

図2は普段の運転時間、運転頻度を表している。男性は少なくとも毎日乗っている割合が73%であるのに対し、女性は45%と少ない。さらに、運転は全くしない人が男性は1%にすぎないが、女性は10%いる。「ごく希に」という人も含めば男性は2%であるのに対し女性は約4分の1にあたる24%に達している。この項目を年代別に見たところ、女性では若い人ほど運転頻度が低い。

図3は運転するということに対して純粹に得意と思うかどうかを本人の主観で答えてもらった結果を示している。男性は4分の3以上が「やや得意」以上と答えた、女性はほぼ半数がそう答えている。また、運転を好きか嫌いかという設問では、男女で好きと嫌いの割合に差が見られなかった。

次に、苦手な運転技術を聞いてみたところ、図4で見られるように、61%もの男性が「無い」と答えているのに対し、女性の61%は縦列駐車や車庫入れ等の駐車が苦手と答え、「無い」と答えたのは16%にすぎなかった。

図5では最初の4つの選択肢の割合におもしろい結果が得られている。「周りにこられて嫌な運転者は？」の設問に対し、男女共に「中年の女性」と答えている。この項目を年代別に見ると、40、50代の女性も中年の女性を23%嫌と答えており、30代以下の女性ではそう答えたのが一番多かった。男性の場合は言うまでもなく同じ回答をしている。

さらに、もっと直接的に異性の運転者の印象を聞いてみた。図6は異性の運転技能について質問した結果である。女性が男性の対して主に感じていることは「自分勝手」、「スピードオーバー気味」であるのに対して、男性が女性に感じていることは「反応が遅い」、「自分勝手」であった。双方がお互いに「自分勝手」と感じているという大変運転者はわがままという結果になった。しかしそれぞれの、なぜ異性の運転者が「自分勝手」なのかという理由は違いがみられている。男性は女性の反応の鈍さと余裕のなさに自分勝手さを感じ、女性は男性のスピードとウインカーに関することに自分勝手さを感じている。男性は女性の運転技術と言うよりも肉体的、心理的な、意識の部分に対して、女性は男性の運転技術とマナーに関して思うことがあるようだ。

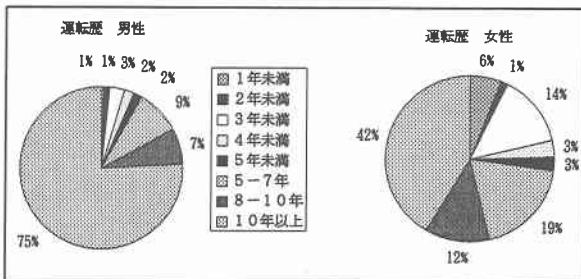


図1 運転歴

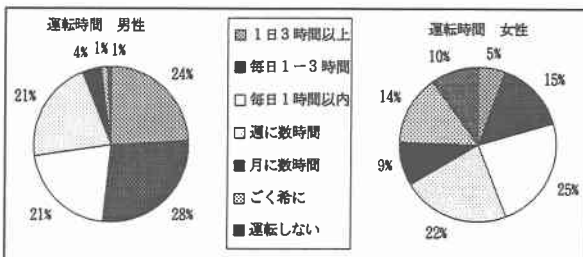


図2 運転時間

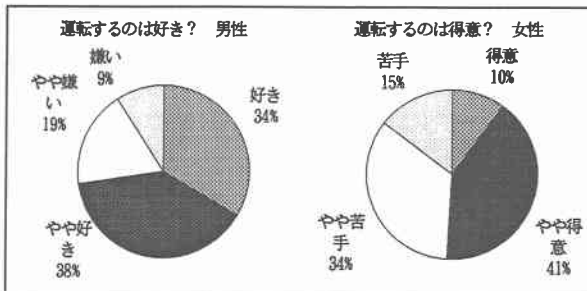


図3 運転するのは得意?

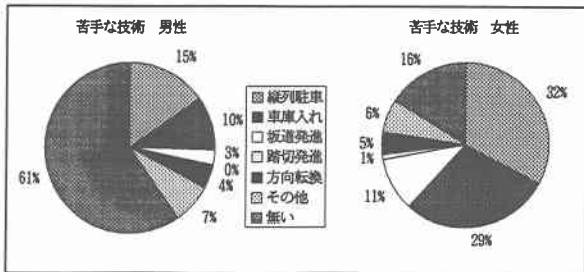


図4 苦手な運転技術

マナーに関する結果を図7に示す。相手（異性運転者）のことを「親切」と答えた割合は、女性が14%であるのに対し、男性では2%であった。「慎重である」と答えた割合は、女性5%、男性10%であった。少数ながらも、相手のいいところも認める割合もあるが、半数以上の56%の男性が女性運転者のことを「自分勝手」と思っている。そして、女性も男性運転者のことを「せっかち」、「意地悪」と答えた割合が半数以上の52%あった。この項目の年代別の結果は、若い女性ほど「意地悪だ」と答えた人が多く、「せっかちだ」と答えた人が少なかった。女性は年代が増すごとに、男性マナーの印象は「せっかちだ」と答える割合が多くなる。男性は回答にあまり年代によらない結果がでていた。

図8は運転歴別交差点における苦手な状況の分布が示してある。この図から、女性でも運転歴が長ければ男性の運転歴の長い人の様に、苦手な状況がなくなっていることがわかる。このことは苦手な運転技術を運転時間別に分析した結果も同様な分布を示した。

これら運転意識に関するアンケートの結果、男女とも意見で男性の運転技術の方が女性よりも優れていて、安全運転という観点でも、男性の方が安全であるという意見に達した。しかし、それは女性の方が男性よりも遅く（年齢を重ねてから）

免許を取り、運転時間も少なく、遠出もせずという経験を重ねる機会がないことも影響しているものと思われる。つまり、性別によって、運転者が嫌われる理由もなければ、運転に優劣、向き不向きがあるとは決していえないのである。現実では、お互い男女運転者は非常に仲が悪いということがわかった。

3. 2 交差点観察

アンケートで得た結果、男女とも交差点で苦手とする右折挙動

に的を絞って、アンケートによる運転意識が実際の道路上で事実なのかを立証するため、交差点で右折車を採点、ビデオ撮影により観察し分析した。取ったデータ項目は、年代、車種、歩行者、対向車の確認状況、

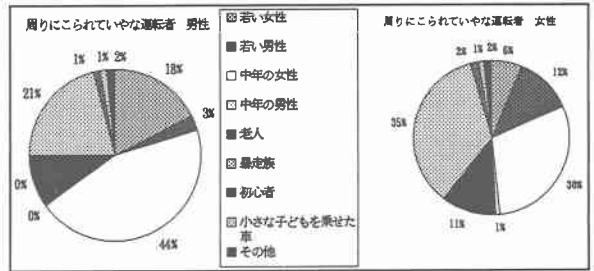


図5 周りの来られて嫌な運転者

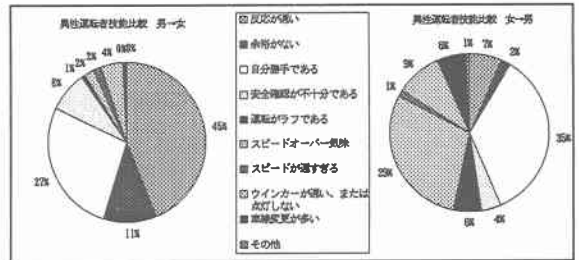


図6 異性の運転者の技能について

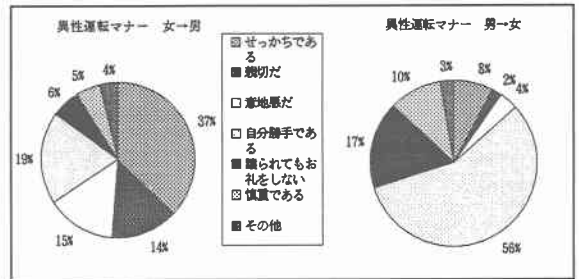


図7 異性運転者の運転マナー

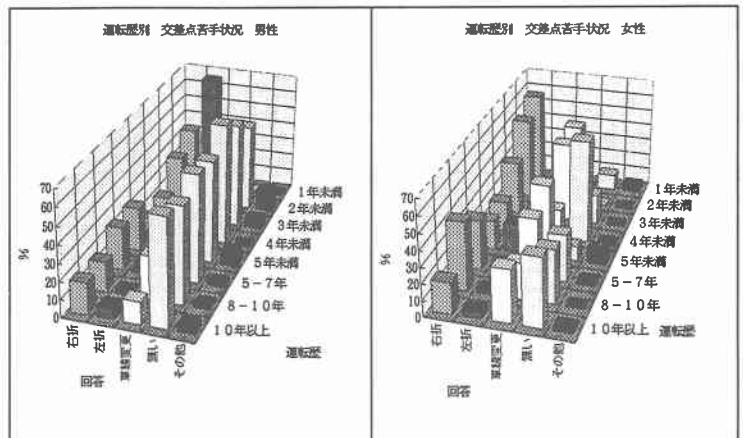


図8 運転歴別 交差点における苦手な状況

ウインカー、発進タイミングである。確認状況、タイミングに関しては4点満点で主観的に採点した。4点が「とても安全」、3点が「安全」、2点が「少し危険、無理があった」で、1点が「危険だった」とした。車種に関しては、軽自動車、ファミリーカー、コンパクトカーに多く乗っていた。

結果は、まず女性は軽自動車、ファミリーカー、コンパクトカーに多く乗っていた。これは発進の際の出足（発進加速度）に影響を与えるファクターの一つとした。図8は対向車の確認状況と発進タイミングの採点結果である。対向車の確認状況を見ると女性の方がやや成績は良いのである。この観察で危険な右折挙動をしたと見られる女性運転者はいなかったが、男性は12.5%が危険な右折をした。発進タイミングについても女性の方が成績はよい。この結果だけを見れば、女性の方が安全かつスムーズな右折挙動をとっているということになる。ウインカータイミングの採点結果も同様で、女性は100%4点を取っている。平日のラッシュアワー時、観察対象が北大に通勤、通学している運転者であることを考慮すると、経験さえ積みめば、運転技術、意識、姿勢には性別で優劣がないことを裏付けしているのではないだろうか。

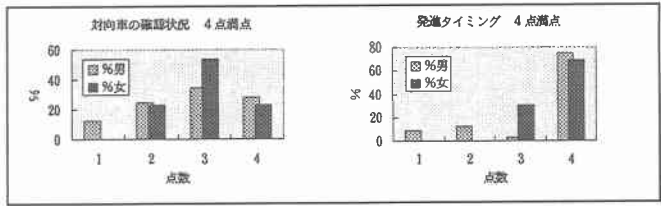


図9 対向車の確認、発進タイミング

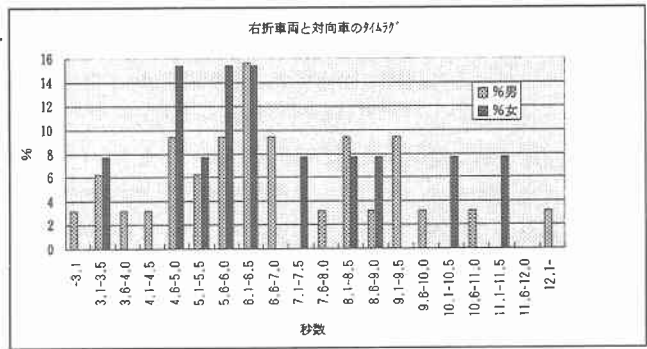


図10 右折車両と対向車とのタイムラグ

図9はビデオ撮影から分析された右折車と対向車とのギャップ時間の分布を表している。ここでギャップ時間とは右折車が交差点内で発進挙動を開始した瞬間から、その対向車が交差点に進入するまでの時間と定義している。男性の平均が6.76秒、その標準偏差値が2.27秒であるのに対して、女性はそれぞれ6.90秒と2.28秒となっている。この結果、男性よりも女性の方が対向車の確認状況の採点結果どおり、やや安全な運転をしていることが示された。

4. まとめ

アンケートの結果、1) 女性は運転経験が男性より少ない。2) 女性は男性より経験の少なさから運転技術的に未熟、または不安を持っている。という2つのことがわかった。13条門交差点での右折車両観察では顕著な違いは見られなかったが、3) 女性の方が慎重で、安全な確認をし、余裕を持った運転をしている、ということが結果として得られた。これら3つのことから、男女で安全、運転に対しての意識には明らかな違いが見られる。性別、年代別に見てもますます違いが見られ、その因子となっているのは運転頻度、運転歴、免許取得時の年齢ではないかと考えられる。男性ドライバーの方が明らかに女性よりも普段長時間運転し、若くして免許を取っている。これは、運転には性別で優劣があるのではなく、経験や慣れがスムーズな運転、周りに迷惑をかけない、安全な運転を作り出すのではないだろうか。

今後、ラッシュアワーでない時間で、買い物に車を利用する40代前後の女性を主に対象とした交差点の観察、実車実験、追っかけ観察などいろいろな角度から女性の運転挙動を分析する予定で、アンケート調査においては、今回免許更新時にアンケート調査を行ったことから、免許取得3年以内の解答を得ることができなかったため、ダイレクトメール方式によるアンケート調査を実施する予定である。

最後にこの研究のために北海道警察本部、手稲運転試験場、北区警察署、交通安全協会の関係各位に多大な協力をいただいたことを感謝します。